



エコパートナーシップうじたわら

うじたわらのもっくん

～茶文化の源 水・緑・生命の環を育む和みのまら～

発行日：平成19年5月17日（第16号）

編集・発行：エコパートナーシップうじたわら広報部会
事務局 TEL（88）6635 FAX（88）3231

今こそ、原点復帰のとき！！

『エコパートナーシップうじたわら』の意義とは？

「エコパートナーシップうじたわら」が発足して、2年半が過ぎました。この間、宇治田原地域の自然観察会の実施や、生ごみ処理を住民の皆さんと共に考える生ごみ懇話会で各地域を行脚したりと、様々な取り組みを行ってきました。今後も「エコパートナーシップうじたわら」に寄せられる期待は小さくないと考えます。

そこでもう一度原点に戻り、新たな気持ちでスタートすべきと考えています。

パートナーシップとは、従来の行政と住民の二極行動ではどうしても対立することも多くなってしまいます。ここに事業者も一緒になって、行政と事業者、更に住民の三者でお互いの違いは違いとして認めながら、宇治田原の環境を良くしていこうという一点に関して心を一つにし、同じ目標に向かって進んでいくというものです。

「エコパートナーシップうじたわら」が具体的に何をすべきか、究極の目標は「宇治田原町環境保全計画」の目標数値の実現に向けて、一つずつ活動を積み重ねていこうとするものです。

◇環境保全計画の目標（抜粋）◆

環境指標	数値目標	現況数値(H19.3時点)
生ごみ処理機購入補助制度利用台数	154台→300台	221台
1人当たりの1日ごみ量（減少率）	753g(100%)→677g(90%)	678g
年間ごみ排出量（減少率）	2,795ト(100%)→2,711ト(97%)	2517ト
廃食油回収量	150kg→1,000kg	2,118kg
低燃費・低公害車率	0%→15%	23.4%
太陽光発電量	0Kwh→25Kwh	20Kwh
小中学校における木製機の設置率	— →100%	100%
地球温暖化防止活動推進員	1人→11人	4人



「エコパートナーシップうじたわら」のシンボルマーク“うじたわらの木（もっくん）”です。少しでも環境に興味のある方、このシンボルマークの下に集いませんか。「エコパートナーシップうじたわら」では、宇治田原の環境を更に良くしようとする皆様の参加をお待ちしています。

☞参考までに☞

『宇治田原町環境保全計画』（平成16年3月策定）

私たちの子孫に現在の宇治田原町の良好な環境を引き継いでいくためには、近年顕在化した地球温暖化問題や、今後の町の発展により発生が予想される都市・生活型公害へ早急に対応することが求められています。

しかし、従来の行政から事業者・住民への規制という方法ではこれらの問題を解決することは難しく、社会経済構造やライフスタイルの変革を図るため、住民・事業者・行政がそれぞれ一体となって環境にやさしい行動をとる必要があります。

そこで、住民・事業者・行政が一体となり、それぞれの立場でとるべき環境にやさしい行動の指針となる「宇治田原町環境保全計画」を策定しました。

☆最新版・地球温暖化の実態と今後の見通し☆

気候変動におけ政府間パネル（IPCC）第4次評価報告書が2007年に発表されました。報告書の主な結論を抜粋します。

- ・ 気候システムに温暖化が起こっていると断定するとともに、人為起源の温室効果ガスの増加が温暖化の原因とほぼ断定。（第3次評価報告書の「可能性が高い」より踏み込んだ表現）
- ・ 20世紀後半の北半球の平均気温は、過去1300年間の内で最も高温で、最近12年（1995～2006年）のうち、1996年を除く11年の世界の地上気温は、1850年以降で最も温暖な12年の中に入る。
- ・ 過去100年に、世界平均気温が長期的に0.74℃（1906～2005年）上昇。最近50年間の長期傾向は、過去100年のほぼ2倍。
- ・ 1980年から1999年までに比べ、21世紀末（2090～2099年）の平均気温上昇は、約4.0℃（2.4～6.4℃）と予測。（第3次評価報告書では1.4～5.8℃）
- ・ 1980年から1999年までに比べ、21世紀末（2090～2099年）の平均海面水位上昇は、26～59cmと予測。（第3次評価報告書では9～88cm）
- ・ 2030年までは、10年当たり0.2℃の昇温を予測（新見解）
- ・ 熱帯低気圧の強度は強まると予測。
- ・ 積雪面積や極域の海氷は縮小。北極海の晩夏における海氷が、21世紀末までにほぼ完全に消滅するとの予測もある。（新見解）
- ・ 大気中の二酸化炭素濃度上昇により、海洋の酸性化が進むと予測。（新見解）
- ・ 温暖化により、大気中の二酸化炭素の陸地と海洋への取り込みが減少するため、人為起源排出の大気中への残留分が増加する傾向にある。（新見解）

次の方・団体から賛助会費をいただきました。誠にありがとうございました

宇治田原町、株式会社宇治田原製茶場、宇治田原工業団地管理組合、宇治田原町商工会、宇治田原町森林組合、協栄開発株式会社、区長会、JA京都やましろ宇治田原支店・田原支店、株式会社馬場義電気、株式会社播磨園製茶、米田造園土木株式会社

※平成19年4月末現在（50音順・敬称略）

☆エコパートナーシップうじたわら入会のご案内☆

◆会員の区分

- ・ 個人会員＝町民、町内への通勤・通学者、環境に関心のある人
- ・ 団体会員＝町内で活動する団体及び法人
- ・ 賛助会員＝本会の趣旨に賛同し、活動を支援する個人・団体及び法人

◆会費

- ・ 個人会員・団体会員については、無料です。
- ・ 賛助会員については、活動支援金として年額1口5,000円の会費を募ります。

◆入会の方法

- ・ 入会申込書に必要事項を記入し、事務局に申し込んでください。

◆部会

- ・ 広報部会・・・会報誌の発行、活動報告書の作成、イベント等の啓発
- ・ 自然・生活環境部会・・・河川や動植物の学習会、自然観察ファミリーハイキング開催
- ・ 循環型社会・地球温暖化防止部会・・・生ごみ処理機の普及啓発、環境家計簿の普及等

応募先・お問い合わせ先：エコパートナーシップうじたわら事務局
（宇治田原町保健医療課循環型社会推進センター内）

〒610-0289 京都府綴喜郡宇治田原町大字荒木小字西出10

TEL 0774-88-6635 FAX 0774-88-3231

Eメール：junkan@town.ujitawara.kyoto.jp



茶文化の源 水・緑・生命の環を育む和みのまち 宇治田原